



セミファイナル3組で、ちょっと波乱があった。

詳細は <http://www.kasuriku.net/nomo/161.html> を。

ランキング1位の江里口選手が、故障による不調のため姿を消してしまった。ちなみに江里口選手はこの悔しさをバネに奮闘、秋の国体では後藤を抑えて見事地元優勝。2009年はインカレも制す素晴らしい学生トップスプリンターになっていく。

しかし、このインターハイは、事実上、後藤と荒尾選手の戦いになっていった。





決勝のレーンは以上のならびになった。



運命のスタート！





見事な初期加速から、すっと抜け出した後藤。
前半のリードを保ち荒尾選手とのラスト20m勝負に。



あと2m! . . .



「勝ったー！！」
私は思わず叫んだ。シャッターを切る指が震えた。

春高陸上部が、インターハイ100m決勝のゴールを
始めて切った歴史的瞬間！



勝者と敗者が生まれるのは残酷だが必然。
昨年は石塚選手が祝福を受け、木村選手ががっくりと肩を落とした。



NHKで放送された勝者インタビュー。多くの春高陸上部OBが感激の思いで視聴したことであろう。
現場で我々は叫んだ。「後藤！おめでとぉーっ！」

振り返り、スタンド上段の大塚さんとガッツポーズ。



記録速報は10秒41。風はほぼ無風。プラス0.1mの素晴らしいもの。

もし・・・追い風1.5mくらい吹いてくれたら、10秒35の県高校記録も届いたと思うと残念であった。これは勝った余裕だが・・・



栄光の表彰式。
ひとつ高い段に赤シャツ
が上った。



後藤が表彰式で、手渡された人形があった。

実は優勝者にだけ渡される、来年の大阪世界陸上のマスコット人形だ。

「世界陸上よろしくおねがいします」というアピールに、会場からは明るい拍手が起こった。



「校旗掲揚」

バックスタンドに春高の部旗が上る。・・・ああ、こんなシーンを本当に見ることができるとは・・・

ここにいたるまでの様々な、数百人のOB達の数十年に渡る苦節が走馬灯のようによぎる。





やはりハイスピードトラックでの連日のレース。そして10秒41という究極のパフォーマンスに脚は悲鳴を上げているようだ。

でもこのカメラにも笑顔で応えてくれた。

ほんとうにおめでとう。
そしてありがとう。





後藤先輩、荒木同窓会長ら、駆けつけてくれたOB同士で深夜まで勝利の美酒に浸る・・・

OB同士とはいえ、歳の差は50年近くもある。こういう風景は春高陸上部ならではのもの。



我々のビジネスホテルで飲んでいる時はすでに午前2時・・・みな記憶が無いらしい・・・そりゃそうだろう。早朝から電車でかけつけ、炎天下35度で一日中観戦、地下鉄を乗り継ぎ、緊張の一日であった。

大阪インターハイはもちろん100mの優勝だけでなく、400mRもあった。二日後の200mもあった。我々ファミリーは、その全ての結果も受け止めて、みな素晴らしい選手の頑張りを誇りに思う。

「春高陸上競技部のOBでよかった。」 さまざまな意味でそう思った。